
義賊幽鬼

ヤギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

義賊幽鬼

【Nコード】

N2522Y

【作者名】

ヤギ

【あらすじ】

とある世界のとある国に、世間を騒がせる2人組みの義賊がいた。被害者が今まで行ってきた悪事を記した紙を、どこかに隠し、目撃した者は一人も居らず、証拠も一つも残さない。故に幽鬼フアントムと呼ばれる。これは、義賊幽鬼の華麗なる犯行履歴 ではなく、幽鬼と周りの人間（もしくは異形）が織り成す日常と非日常のお話。

a c t ・ 0 0 義賊（前書き）

皆様の暇つぶし程度になれば幸いです（＾　＾）

「さてと、今夜も仕事を始めますか」

深夜のビルの屋上で、一人の青年が呟いた。

黒のYシャツに黒いジーンズを着た長身の青年で、一見すると良いところの大学生に見える。

青年はおもむろに、足元に置いてあるショルダー式のスポーツバックから、この場にはまったく似合わない、ロッククライミングや工事現場で下に下降するときに使ったりする道具を取り出し、手際よく準備を進め始めた。

準備が終わると、今度はバックからラ薄手の手袋を取り出し、それをはめる。ライトと、そして人が一人入れそうな大きな袋を取り出して、落下防止用の手すりをまたぎ越した。

そして、慣れた様子で下へとスルスルと降りていく。

昼間だったらあまりにも不審で、すぐに警察に通報されそうな行動だが、深夜ということもあり誰も道路を通っていない。

ピタリ、と青年が空中で止まった。

青年の前には、今回のターゲットがいる部屋がある。

普通だったら防犯のために窓に力ギがかかっている入れないはずだが、窓は開いており、青年は簡単に部屋へと侵入することができた。

部屋に侵入した後の青年の行動は迅速だった。

まず、体に取り付けていたハーネスを取り外し、ライトをつける。そして、周りを見ることも無く部屋の一角へと近付いた。

青年が近付いた先には一つの金庫があり、南京錠の鍵がついていた。

青年はジーンズのポケットからケータイを取り出し、どこかへ電話をかけた。

『あー、もしもし？ やっぱ鍵は南京？』

「お前の予想通りだ」

相手は青年と同年と思われる女の声だった。

「速く番号を教えろ」

『ハイハイ、ええつとお【623819】だよ。多分』

どこか気だるげな声で、女が答えた。多分と言っている割には、声には自信が感じられる。

青年は女に言われたとおりに番号を設定して、金庫のドアを開けると、中には何百枚もの福沢諭吉がいたが、青年は感慨深いものも浮かべずに中のお金を全て持っていた袋に入れた。

「当たり前」

『そりゃあ、良かった。ところで、あと12分くらいで部屋の主が帰ってくるよ』

青年はその言葉には答えずにケータイの通話を切った。

からっぽだった袋がずしりと重くなったのを感じながら、入ってきた窓の近くへ行くのかと思えば、部屋の真ん中にある立派な業務用と思われる机に近付いて、その机の一つの引き出しの中に無造作に一枚の紙を入れた。

そしてそのまま、入ってきたときは逆の手順で屋上へと戻っていくのだった……。

翌日、とある新聞の夕刊の一面に大きく、こんなことが記されていた。

「義賊幽鬼、またも現る！！」

ここ最近、報道番組や新聞などを大きく騒がす謎の泥棒をご存知だろうか。

監視カメラに一度も映らず、目撃者も一人もおらず、犯行現場がいつも神出鬼没で、証拠という証拠を残さない神秘のベールに包まれているため、各方面から「幽鬼」と呼ばれている。

そして何故、題名部分に「義賊」と書かれているのかと言うと、幽鬼は犯行現場に必ず被害者の悪事を記した紙をどこかに隠しているからだ。

この結果、泥棒にお金を盗まれた為に警察に通報したはずの被害者が容疑者となり、警察に逮捕されるといふ不可思議な現象がおこる。

そして大抵、同時期に孤児院などに多額の寄付金が送られるのだ。寄付金については幽鬼が行っているという証拠は無いが、時期的なことを考えるとやはり繋がりが在るとしか思えない。

先日、都内某所にある会社から「金が盗まれた」という通報があった。

警察が現場へ駆けつけて捜査してみると、犯行が行われた部屋にある机から、幽鬼が置いていった物と見られる紙が置いてあった。

案の定、その紙には被害者の今までの犯罪履歴が事細かに書いてあり、被害者は警察に逮捕されてしまった。

そして証拠は一切見つからず、捜査は一步も進むことはできなかつた。

これはニュース番組も同じで、街にいる人々に幽鬼のことをどう思うか聞いてグラフにまとめたりしている番組もあった。

ネット上には幽鬼^{ファンタム}について談義するための掲示板が作られたり、ファンが独自に作り上げたファンクラブが創設されたりと、「義賊ブーム」とでも言うべきものが浸透しつつあった。

a c t ・ 0 0 義賊（後書き）

ここまで読んでいただきありがとうございます！

まさか読んでくれる方が居るとは全く思っていませんでした……

マジでありがとうございます……！ m ((m

誤字脱字等がありましたら、感想等で教えてくださると嬉しいです

^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2522y/>

義賊幽鬼

2011年11月17日00時08分発行